

# 3月11日に大川小学校で明かり 竹の灯籠の最終仕上げ 石巻

03月05日 12時22分



震災で多くの児童らが犠牲になった石巻市の大川小学校では、遺族たちが鎮魂の願いを込めて3月11日に竹の灯籠に明かりをともすことにしていて、5日は灯籠の最終仕上げが行われました。

12年前の震災の津波で児童と教職員あわせて84人が犠牲になっ

た石巻市の大川小学校では、鎮魂の願いを込めて竹の灯籠に明かりをともす取り組みを、去年に続きことしも3月11日に遺族たちが行います。

命の大切さなどを考えるきっかけにしてもらおうと、竹の灯籠作りを県内外から募って行って、5日はおよそ30人が参加しました。

作業は最終仕上げで、参加者は飾りの穴が彫られた竹を磨いたり、竹の中にLEDライトを通したりしていました。

参加した静岡県の大学3年生は「大学で震災や防災教育を学んでいて、参加しようと思いました。多くの人に竹明かりをみてほしい」と話していました。

今回のプロジェクトの共同代表を務め、大川小学校で6年生だった三男を亡くした佐藤和隆さんは「確実に風化が進んでいる中で、1人でも多くの方が作業に関わることで震災を思い出してもらいたい。11日は震災を改めて思い起こす静かな日にしてほしい」と話していました。